

⑥住居表示制度の概要

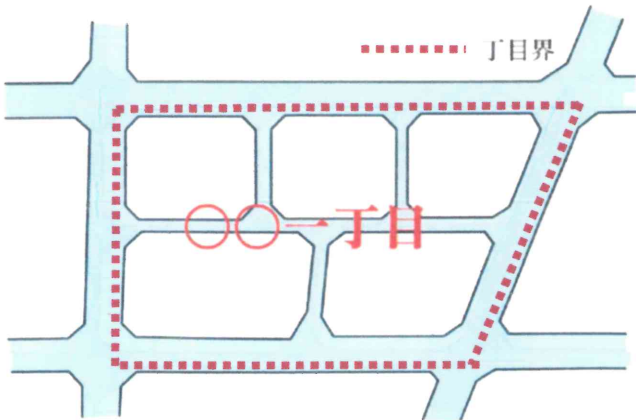
住居表示には、街区方式と道路方式があります。

住居表示には、街区方式と道路方式の2種類があります。道路方式というのは、道路網の発達している西欧諸国で多くとられている方法で、道路に名前をつけ、道路に面している建物等に一定の方式でつけられる住居番号を用いて住居を表示する方法です。
わが国では、一般に「街区方式」が採用されています。山口市においても、街区方式を採用します。

街区方式とは…

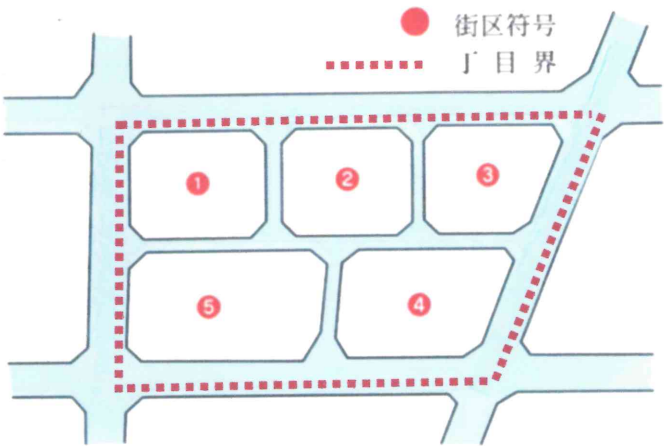
①最初に町名、町割り（丁目）

町名は、歴史的に由緒のあるもの、親しみ深いもの、語調のよいものなどを選び、山口市内で同一の町名または類似の町名が生じないようにします。
町の名称として「丁目」をつける場合には、その数はおおむね6丁目までとします。
町の境は、道路、河川、水路、鉄道または軌道の線路、その他恒久的な施設によって、できるだけ簡明な境界線で決められます。町の大きさは、その町の性格、形態、及びその地域の用途地域別、並びに人口、家屋の密度などを考慮して決められます。



②次に街区割り、街区符号（番）

街区の境も町の境に準じて、道路、鉄道、河川など恒久的な施設で区切られます。ひとつの街区の大きさは、20～30戸が適当とされています。各街区には順序よく番号をつけ、この番号を「街区符号」と呼びます。



③最後に住居番号（号）

街区が決まったら、その中にある各建物に番号がつけられます。ただし、街区内の建物にそのまま通し番号をつけてしまうと、将来家屋が新築されたり、取り壊されたりした場合に番号の乱れを生じてしまいます。そこで、新しい住居表示では、街区内に基礎番号をつける方法がとられています。基礎番号とは、街区の角を起点とし、原則的に右回りに街区のまわりを10mの間隔で区切り、順序よくつけられた番号のことです。
そして、各建物の住居番号は、その建物の出入口が接するところの基礎番号が用いられます。

